2021年度 施策マネジメントシート【2020年度実績評価】　作成：2021 年 6 月 18 日

施策番号	施　策　名	担い手育成と農業の応援団づくり	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり		
1-1-1			政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化		
	主　管　課	農林課	課長名	我妻　修一	内　線	242
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図	結果
農業経営体の育成と新たな担い手の確保を推進し、町民の「食」と農業に対する理解の促進を図り、持続可能な農業による活力あるまちづくりを目指します。	農業経営体 町民	・農業経営体の育成と新たな担い手確保による、経営の安定、拡大 ・担い手への農地集積 ・町民の「食」に対する理解促進	専業経営を中心とした、発展・持続する土地利用型農業の推進

	成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度(予想)	2022年度目標	
①	新規就農者数（後継者就農を含む）	農林課調べ	人	58	8	11	15	50	
②	認定農業者等の担い手への農地集積率	農林課調べ	%	95.6	95.3	95.6	95.6	95%以上	
③	日頃、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合	住民意識調査	%	75.8	83.8	84.0	84.0	80.0	
④									

成果指標設定の考え方	
	①新たな担い手確保における成果として、新規就農者数を指標とし、期間内に50人を目指すもの。 ②農業経営の基盤となる農地をできるだけ担い手に集積するという考え方から、農業委員会による本調査数値を成果指標とし、現状維持を図っていくもの。 ③農業への理解と郷土愛醸成の指標として、本調査の割合を高水準で維持することを目指すもの。

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算
施策事業費（千円）	2,224,135	35,084	88,756
人工数（業務量）	4.7540	4.5469	2.4198

3. 施策の達成状況

（1）施策の達成度とその考察

①2020年度の成果評価	☐ 成果は向上した ☑ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	・新規就農者、農地集積率は大幅な増減はなく堅調に推移 ・地産地消への意識については、近年の安全安心な食に対する関心の高さから高水準を維持
②2022年度の目標達成見込み	☑ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠（理由）	・関係機関と連携した新規就農者の確保、支援などの取り組み推進により、目標達成が期待できる。 ・「食農理解促進事業」の継続により地産地消へのさらなる意識の高まりが期待できる。

（2）施策の成果評価に対する2020年度事務事業の総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業担い手育成支援事業 食農理解促進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り（総括）	・自主的活動支援事業補助金により、様々な研修・研究が行われるよう、担い手への支援を実施した。 ・農業後継者のスムーズな就農を支援するため、JAめむろと連携し「新農業経営育成システム」について見直しを図りながら継続実施した。 ・食農教育は、新型コロナウイルス感染症の影響で一部のみの実施となり、メインである課外授業ができなかったが、2021年度の実施に向けて、教育委員会、指導農業士会、農業振興センターと協議を重ねた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果					
	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

A：実現した
B：（前期実施計画策定時と比較して）大きく前進した
C：（前期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（前期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した
E：（前期実施計画策定時と比較して）後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・農業現場における労働力不足は、農業の安定経営を図るうえで、解決すべき大きな課題である。 ・労働力不足解消のため、JAめむろと連携・協議し、中・長期的な視点から、新規就農者の受け入れ態勢の整備も含め、具体策について検討が必要となっている。 ・哺育育成施設の整備がほぼ完了し、2021年度から供用開始されることから、酪農現場における労働力確保への寄与が見込まれる。 ・安全安心な食への関心の高まり、食を創り出す農業の魅力が見直されてきており、めむろ農業の応援団づくりのため、食農理解促進事業の重要性は高まっている。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・農業現場における労働力確保対策

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み（今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み）

・新規就農者の確保について、短期間の実習制度や、居住場所など、受け入れ体制の構築に向けて関係機関による会議体において検討する。
・2020年度から開始した食農教育（2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一部のみ実施）について、対象学年や実施内容等、毎年度見直しながら、教育委員会、指導農業士会、農業振興センターと連携し継続実施するとともに、めむろ農業小学校へつながる仕組みも検討する。
・めむろ農業小学校は、今後も農業者との農業体験をメインに事業を展開し、農業と食の大切さを体感するという軸は保ちながら継続実施する。

6. 経営戦略会議（庁内評価）

評価	成果指標等から、前進したと評価する。
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

A：実現した
B：（前期実施計画策定時と比較して）大きく前進した
C：（前期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（前期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した
E：（前期実施計画策定時と比較して）後退した

7. 総合計画審議会（外部評価）

評価	成果指標等から、「C前進した」と評価する。
今後の取組に対する意見	・芽室の人が芽室の野菜を買っているかを期間限定でもいいので集計を取るのはどうか。実際消費高がどれくらいなのかが分かれば、より一層、芽室の人は芽室の農家さんに関心を持つという図式になるのではないか。

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

A：実現した
B：（前期実施計画策定時と比較して）大きく前進した
C：（前期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（前期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した
E：（前期実施計画策定時と比較して）後退した